

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	歴史文化学コース (東洋史学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)						コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 						<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>											
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究手法を学ぶ講義科目や文献講義を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>						過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。		設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。		史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。		多くの文献に当たり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。		時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。		歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察と幅広いパースペクティブを養うことができる。	
専門分野のカリキュラム																	
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期												
11052	中国史概説	・東洋史なかでも中国史の基本的なことがらについて理解を深める。 ・古代中国の政治や社会の特徴を歴史的に捉え、その中国史全体のなかでの意味を考察することができるようになる。	2,3,4		*	△						○	○				
11021	東アジア史概説A	・中国史、並びに東アジア史を学ぶために最低限必要な知識の獲得を目指す。 ・中国史の時代区分についての基本的な知識を獲得する。 ・歴史の変動が持つ中国史・東アジア史全体の中での意味について学ぶ。 ・中国史・東アジア史の基本的な用語についての知識を獲得する。	2,3,4	*		△						○	○				
11022	東アジア史概説B	・中国史、並びに東アジア史を理解するための基本的な知識を会得する。 ・東アジアの特徴を歴史的に理解できるようになる。 ・中国における歴史的な事象を、東アジア史という枠組みのなかで捉えられるようになることを目指す。	2,3,4		*	△						○	○				
41602	中国秦漢時代史特殊講義	・当該時代の政治史・制度史上の論点について、基本的なことがらを理解する。 ・研究史整理について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。 ・史料批判について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。	2,3,4	*		△						○	○				
41603	中国唐宋時代史特殊講義	・当該時代の歴史についての基本的な知識を理解する。 ・東アジアにおける歴史認識問題について基本的な事項を理解する。 ・当該時代を対象とする歴史研究の特色や問題点を理解し、歴史研究の方法について考えられるようになる。	2,3,4		*	△						○	○				
41604	中国明清時代史特殊講義	・当該時代の歴史についての基本的な事項を理解する。 ・研究史整理の方法を理解し、会得する。 ・研究を進める上で必要となる視点や方法を身に付ける。	2,3,4	*		△						○	○				
41606	東アジア政治制度史特殊講義	・主として中国古代における、政治史・制度史上の論点について、基本的なことがらを理解する。 ・研究史整理について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。 ・史料批判について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。	2,3,4		*	△						○	○				

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	歴史文化学コース (東洋史学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 					<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>					
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)					コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系的骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究方法を学ぶ講義科目や文献講義を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>					<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献に当たり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察と幅広いパースペクティブを養うことができる。</p>					
専門分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期					
41607	東アジア社会経済史特殊講義	・明清時代を中心とした、東アジアにおける社会経済の状況を理解する。 ・東アジアの社会経済史に関する基本的知識を会得する。 ・研究を進める上で必要となる視点や方法を身につける。	2,3,4		*	△			○	○
41608	中国史研究の現在	・中国史に関する研究における基本的、かつ最新の研究状況を把握する。 ・研究を進める上で必要となる視点や方法を身につける。	2,3,4	*		△			○	○
41609	東アジア史研究の現在	・東アジア史に関する研究における基本的、かつ最新の研究状況を把握する。 ・研究を進める上で必要となる視点や方法を身につける。	2,3,4	*		△			○	○
41610	東洋史学の現在	・東洋史学の諸問題について理解し、その基本的、かつ最新の研究状況を把握する。 ・研究を進める上で必要となる視点や方法を身につける。	2,3,4	*		△			○	○
41612	中国秦漢時代史演習A	中国秦漢時代の歴史に関する史料講義を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4		*	○	◎		△	△
41613	中国唐宋時代史演習A	中国の唐代～元代の間に著された史料の講義を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4	*		○	◎		△	△
41614	中国明清時代史演習A	中国明清時代の歴史に関する史料講義を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4		*	○	◎		△	△
41616	中国秦漢時代史演習B	中国秦漢時代の歴史に関する史料講義を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4	*		○	◎		△	△

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	歴史文化学コース (東洋史学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)						コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 						<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>											
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広める。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究手法を学ぶ講義科目や文献講義を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要とするスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>						過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。		設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。		史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。		多くの文献に当たり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。		時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。		歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察と幅広いパースペクティブを養うことができる。	
専門分野のカリキュラム																	
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期												
41617	中国唐宋時代史演習B	中国の唐代～元代の間に著された史料の講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4		*			○	◎			△	△				
41618	中国明清時代史演習B	中国明清時代の歴史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4	*				○	◎			△	△				
41620	東アジア政治制度史演習A	東アジアの政治制度史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4	*				○	◎			△	△				
41621	東アジア社会経済史演習A	東アジアの社会経済史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4	*				○	◎			△	△				
41623	東アジア政治制度史演習B	東アジアの政治制度史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4		*			○	◎			△	△				
41624	東アジア社会経済史演習B	東アジアの社会経済史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4	*				○	◎			△	△				
41625	東洋史学研究法演習	・自身の興味・問題意識の具体化と絞り込みを行う。 ・自身の研究テーマを設定する。 ・1年間かけて学習・調査した成果を文章化してまとめる。	3,4	*	*		○	○	◎			△	△				
41626	東洋史学基礎実習	・東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2,3,4	*			◎	○	○								

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	歴史文化学コース (東洋史学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 					<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>					
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)					コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概論的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究手法を学ぶ講義科目や文献講義を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>					<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題をの本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察と幅広いパースペクティブを養うことができる。</p>					
専門分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期					
41627	東洋史学展開実習	・東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2,3,4		*	◎	○	○		
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*		△	◎	◎	◎	△
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4	*		△	◎	◎	◎	△
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4	*		○	◎	◎	◎	○
11001	人文学序説1	・人文諸学の専門分野で学ぶ内容の概要を把握する。 ・人文学類における学問の全体をイメージできるようになる。	1	*		◎				
11002	人文学序説2A	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・ラボラトリ(実験)、テキスト(文献読解)、サーベイ(調査と分析)、フィールド(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		○				
11003	人文学序説2B	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての歴史学について、歴史資料の捉え方、研究の課題、研究方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		◎				
11004	人文学序説2C	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての言語学・文学について、基本的な視座や研究方法についての基礎的な知識を理解する。	1	*		○				
11005	学類共通英語1	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	2	*			◎			○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	歴史文化学コース (東洋史学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)				コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 				<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>					
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)				コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究手法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要とするスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>				<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献に当たり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察と幅広いパースペクティブを養うことができる。</p>					
専門分野のカリキュラム									
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期				
11006	学類共通英語2	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語1」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*			◎		○